

西田さんの功績たたえる

宮坂英弐記念
尖石縄文文化賞 考古館で授賞式

茅野市は3日、縄文文化の研究や振興に功績のあった研究者に贈られる第26回「宮坂英弐記念尖石縄文文化賞」の授賞式を市尖石縄文考古館で開いた。縄文文化の生活実態の解明などに大きな功績があり、保存活動にもよく取り組んだとして、東名遺跡(佐賀県)の発掘、研究にあたる佐賀市地域振興部文化財課の西田巖さん(58)が賞に輝いた。式には関係者ら約60人が出席。今井敦市長が西田さんに



今井市長から賞状を受け取る西田さん

賞状と木曾漆器製の盾を贈呈した。西田さんは受賞あいさつで「多くの人の協力や調査成果がもととなって遺跡の重要性が築かれているので、そうした方々の頑張りを代表して賞をいただいたものだと思っています」と説明。2028年の開館をめどに遺跡と周辺施設の整備計画を進めているといい、「きちんとしたガイドダンス施設を作り、見つかっ



式に合わせ名前がお披露目された「名もなき土偶」改め「ぐっちゃん」

たものを後世につないでいきたい」と意気込んだ。

名もなき土偶は

「ぐっちゃん」

中ッ原遺跡で出土

この日は、中ッ原遺跡で2000年に出土して現在同館で展示する約5センチの「名もなき土偶」の命名披露も行われた。仮面の女神出土25周年の記念イベント時にアンケートを募ったといい、回答総数85票のうち40票を占めた「ぐっちゃん」に決まったと発表された。

閉式後は西田さんが記念講演。「東名発掘ストーリー」東

名遺跡発掘から35年と題し、発掘調査の経緯や縄文人の暮

らしなどについて話した。

(平岡大輝)